

“ロータリアンよ男は男の美学、女は女の美学を持ち品格を高めてこの暗い末法の世に光り輝こうではありませんか！”
以上が 20 年間の感想でございます。
大変失礼いたしました。

第 750 回例会 木宮 隆16代会長



先日、田坂広志氏の著書「使える弁証法」を読んだ。
新しいビジネスモデルを構築する際に役立つ、考え方のヒントになる 含蓄に富む一冊だったので、参考までに紹介したい。
弁証法とはかのドイツ観念論哲学者ゲオルグ・ヘーゲルがカント等と確立した人類史上最高峰の哲学思想である。
数ある弁証法の法則の中で最も我々の日々の仕事に役立つのが事物の「螺旋的発展の法則」である。つまり、物事が発展する時、それは直線的にではなく螺旋的に発展するという。螺旋的とはあたかも螺旋階段を登るように、ぐるぐると円を描きながら、登っていく。真上から螺旋階段を登っている人を見ると、一見同じ円周上を回っているように見えるが円を一周して同じ位置に戻った時には一段高い

発展した位置にいることになる。
このことを具体的事例で説明すると、例えばヤフーのインターネットオークション。これは一般的に商品の値段は売り手が設定するが、オークションでは買い手が値段を吊り上げる。ゲーム感覚で参加できることも手伝ってか、目下注目のビジネスモデルとなっている。
しかし、よく考えると、このオークション、実は、古くから鮮魚市場や青果物市場などで見かける「競り」そのものなのだ。この一度は非効率だと市場から姿を消しかけた「競り」が螺旋階段を一周して再び発展型ビジネスモデルであるネットオークションとして復活して来る。
同じような事例として「寺小屋」が自律型教育である E ラーニングとして、「御用聞き」がコンシェルジュサービスとして現代に復活している。
ビジネスモデルを考える王道は無いが、古くからあった慣習を現代にマッチするよう IT 技術などで味付け、工夫することで、案外瓢箪から駒がでるのかも知れない。

高森	武志君	祝・1000回例会
加藤	實君	〃
青木	省一君	〃
星野	義男君	1000回記念の夜例会に感謝して！！
小林	幹扶君	1000回記念にBOXに協力
岡田	健君	〃
丸山	達夫君	〃
栄長	隆文君	〃
山崎	勲君	〃
五十嵐	茂君	〃

米山奨学ボックス

星野	義男君	1000回記念として、山本委員長に応援して。
小林	繁男君	1000回例会を記念して
佐藤	弘志君	山本委員長と目が合って
大橋	政雄君、五十嵐 茂君	他無記名でご協力いただきました。

記念スピーチ

第1回例会 中條耕二初代会長



北クラブ 1000 回記念例会
誠におめでとうございます。
心からお慶び申し上げます、お祝い申し上げます。
三条北クラブの誕生の経緯(いきさつ)は、1987 年藤田説量氏がガバナー誕生の前年、僭越ながら私が三条ロータリークラブ 27 代の会長時代でした。早速、金子左武郎初代会長から呼び出しがあり、用件は藤田説量氏に協力せよとの至上命令でありました。当時の私の幹事、梨本清一氏も同席しており、梨本清一氏は地区の副幹事として、山本福七幹事の片腕として活躍することとなり、態勢が整いつつある中で、藤田ガバナーが国際協議会、当時はアメリカのテネシー州ナッシュビルで開催された、この指導者養成学院とも言うべき協議会で、RI 会長に手形を発行した。即ち二つのクラブの誕生を約束してきたとのことであった。
さあ大変、3 年ばかり前に見附 RC を誕生させたばかり。つくったのは中條・梨本と二人が見附に通ってつくった経過があり、私に白羽の矢が下った。即三条クラブ内で拡大委

員会をつくり、不肖私に委員長をとガバナーから指名があった。予算は当時の日戸会長から理事会を経て百万円が予定された。私もどうせつくるなら、栄町につくろうと策略した。15 名集まったが、どうしても 12 月迄に 20 名に達しない。ようし、それなら三条にもうひとつ、つくってやろうと 24 名集めたのが三条北クラブの発足であった。わずか 1 ヶ月で誕生した栄の仮クラブはそっくり、栄ライオンズクラブとなって徒労に帰してしまった。二兎を追う者一兎も追えず、であった。
以上簡単に三条北クラブの誕生に触れてみたが、1986 年 7 月からスタートして年度内に三条北クラブの創立総会をしないと、藤田年度に間に合わない。当時既に吉田クラブが仮クラブとして例会をもち始めており、グリーンクラブという仲良しの会がロータリークラブとなり、藤田年度に充分間に合う形勢となっていた。メンバーの 24 名を集め、第 1 回例会として 1986、昭和 61 年 12 月 2 日(火) 岩井和夫氏を特別代表として、正式の第 1 回の例会を三条ロイヤルホテル、現在の例会場によく立ち上げたのである。いや応なく、私が初代会長、梨本清一氏を初代幹事、年輩の樋口金占氏を副会長、SAA 今井克義氏であった。昭和 19 年生まれの方が多かったよう

8 月のお祝い

誕生日				結婚記念日			
会 員		ご夫人					
高森	武志	6	石川 千鶴	3	外山裕一・文佳	5	
石丸	進	9	佐藤 弘子	6			
星野	義男	10	外山 文佳	7			
加藤	實	10	石川みや子	21			
五十嵐	茂	17	小林 明美	22			
笹原	壯玄	25	星野 雪枝	24			
西村	護	27	小畠 弘子	24			
青木	省一	31	丸山 夏子	25			



に思うし、今から考えると薄氷を渡る思いの誕生であり、知っている人も知らない人もいる、正に寄り合い所帯であり、月を追う毎に増強したように思うが、出たり入ったりの連続であった。そして一日も早く、と RI からの認承証の到着を待った。

12月23日(火)、おゝ乃さんで初めて家族同伴例会、第4回目の例会がクリスマスパーティとなり、大いに盛り上がった。

新年1987年に入り、私は火曜日の仮クラブの三条北クラブの例会を主宰し、水曜日の三条クラブの信金本店3Fの例会に出席、2つのクラブに籍をおいて2足のわらじを履いた。理由は北クラブに在籍するか、三条クラブに戻るかであった。三条クラブの人たちは帰ってくるものと信じていたが、私は三条北クラブに骨を埋めることにした。

なぜか。第1回の例会のご挨拶は計らずも、北クラブのメンバーになった以上、生涯の付き合いをしよう、「命のある限り友情を深めよう」と挨拶したのである。23年お世話になった三条ロータリークラブに未練がなかったと言えば嘘になるが、「みんなで大きな友愛を育もう」、そしてこの北クラブを大きく充実・発展させようと肝に銘じた、第1回の例会の挨拶であった。

三条ロータリークラブ全員が集って、松木屋で私と梨本清一氏の送別の宴を催し、別れを惜しみ激励してくださったことが昨日の事のように思う。北クラブの誕生は、三条クラブのお陰であることを忘れてはならないことである。

その後の三条北クラブは歴代会長を中心に、今日県内のクラブ、即ち RI 第2560地区の中でも、会員数・財団・米山奨学会の寄付にみられる如く、21年にしてトップクラス、いやトップと言ってもいい程のクラブに発展したことは、何よりもうれしい限りである。1,000回例会に当り、唯感謝・感激あるのみであり、会員の方々のご奉仕に、心からお礼申し上げる次第である。

第250回例会 山上茂夫6代会長



先般、中條さんからお話がありました。私が会長をさせて頂いたのは中條さん、樋口さん、梨本さん、平松さん、今井先生のあと6代目でした。その頃はロータリーは何をすればいいのか、どんな会か全く判らない者同志でした。私の年度はインドのラジェンドラ・Kサプーという人がRI会長で、太田市の橋本力ガバナーでした。私の時だけガバナーのターゲットというかメッセージはありませんでした。兎に角、好きな様にやれば良いとのことで「自分を越えた眼を」と哲学的なテーマでルック・ビヨンド・ユアセルフは「自分の心やこだわりを越えた大きな視点で行動しなさい」と私は解釈して思ったことをやろういとししました。ロータリーについては基本的なことで侃々諤々の種んな意見がありましたが、会議の中で佐藤義英さんが「会長がやりたいと云んだから皆でやればいいじゃないか」と云う一言で方向がまとまった事を覚えています。今チャーターメンバーは13名でしょうか？北ロータリークラブは基本的なスタンスを青少年の健全育成に置いていて、今井先生の代で路線はある程度進められていたので私は楽でしたが、何分わたしの性格で進むので女房役の堀川さんは良く見守ってくれた、支えてくれたと思っています。おだやかな人格者で私も恵まれたと感謝しています。家庭も妻の内助の功がなければ栄ません。また私はボランティアの団体とも積極的に交流しようと動いたり、時恰も国際化の時代到来と国際交流を考え、外国人妻のところを訪問したり、夜遅くまで社会奉仕委員長（稲田さん）と積極的に行動しました。「ロータリーを楽しもう」と云うテーマもありました。

私はストレス発散もあって会長任期が終わる直前にロータリーの国際大会に参加をし、依

頼、何度となく大会参加を続けて来ました。ロータリー会員は皆がそれぞれ経験的な財産を持っています。それぞれその人の考え方、見方や経験があります。他クラブにメークアップする事でその経験を多様に吸収できます。私が北ロータリーに入ったのは54歳の時でした。当時は平均年齢が44歳位と聞いていましたが、今は66歳位でしょうか。何も判らないうちに年が経ったと感じています。私は海外旅行に行くと安いツアーで行っても必ず其の地のロータリークラブに出席しました。私流にロータリーを楽しんで国際交流を深め交友を重ねてきました。ロータリーはそれが宝の山であって広い立場で物事を考え、相手を理解する事が出来ます。それを地元でどの様に行動し、社会奉仕してゆくのが大切だと思います。

私の年度に佐藤文夫さん、坂本勝司さんが入会され、そして柄沢憲司さんなどが続き大変立派に行動しておられます。

これも皆ロータリークラブにその原点があるのではないのでしょうか。人間形成の場でもあり親睦を深める事で、自分自身知らず知らずに成長するんだと思います。大変長くなりましたがこの辺で終わります。

第500回例会 堀川正幸11代会長



皆さんコンニチハ！

1000回記念に5分間喋れとの有難い要請をいただきましたが、5分も話すのは中々大変です！

北ロータリークラブに入会して21年目になりますが、当時43歳だった若造も今や63歳の熟年でございます。

熟年と云うからには、何か熟した所が有るだろうかと考えてみましたが、あまり成長していないのでは無いかと反省しております。

20年間ロータリーの奉仕活動に参加して来て 今感じている事は、この20年の間に世の中が随分悪くなったな—という事です。ちょっと拾ってみますと、

- ① 何でも有りの拝金主義の人達の節操の無さ。
 - ② 本音と建前の使い分けのうまさ。
自分本位のウソだらけの政治、行政、経営、などです。
 - ③ 中国製品を始めとする安かろう悪かろうの粗悪品の万延。
 - ④ 泥棒、殺人、その他多発する刑事事件。
 - ⑤ 年間3万人に達する自殺者の増加。
- このような企業や大人達の有り方が、子供達を狂わせているのではないか、私達大人が反省し、生き方を変えなければいけない。お金を出すだけでは世の中は良くなりませんと思います。

“ロータリアンよ目を覚ませ！奉仕奉仕とさわぐよりも天にも地にも己にも恥じない生き方や仕事をするところこそが本当の奉仕である！”と云いたいところです。特に人を粗略に扱ってはいけない、他人を軽く見る人は必ずそのツケが自分の所へ戻ってくるという事だと思います。経営者であり、社会のリーダーであるロータリアンは特に心して当たらねばならないのではないかと、全国のロータリアンが手を結び新しい方向を打ち出せば世の中はきっと良くなると思いますが、日本を良くするために、今我々ロータリアンが何を為さねばならないか？

我々に出来る事は沢山有ると思いますが、一言で云うならば、あの世に帰っても恥ずかしくない生き方をする事ではないのでしょうか。国家の品格という本を書かれた方もいますが、人のいない企業や国家は存在しないのと同じですから、すべて人から始まり、人で終わるのではないかと。

即ち個人の品格、企業の品格、社会の品格イコール国家の品格であろうと思います。人を大切にし、良い仕事をする事によってロータリアンは自らの品格を高め、更に全国のロータリアンが手を結ぶことによって日本を格調の高い、人も国土も美しい国に出来るのではないかと、